

## リアルな地域のあり方を住まいとの関係で描く(1) 生活空間としての地域に関わるヴィジョンを語る

主催：一般財団法人住総研 於：2012年7月13日（金）13：30～17：00 建築会館ホール  
司会：松村秀一（東京大学大学院 教授）  
講師：清水義次（株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）、山本理顕（株式会社  
山本理顕設計工場）、岡部明子（千葉大学大学院准教授）、藤澤好一（一般社団法人  
人工務店サポートセンターセンター長）

当財団の本年度の重点テーマである「リアルな地域の在り方と住まいとの関係で描く」に際して、  
今テーマの提唱者である松村秀一東京大学大学院教授を中心に、本年度で合計3回のシンポジウム  
を企画している。その第1回目となるシンポジウムが2012年7月13日に開催されたので報告する。

### ■松村秀一 シンポジウムの主旨：「地域のヴィジョンを豊かに描く」

はじめに松村秀一氏から、今日の縮小社会・ストック社会におけるこれからの住まいを  
考えるとき、「住まう」ことの舞台ともいえるべき「地域」の必要性が述べられた。

労働や生産、祭りや縁日など住宅地の地元の行事、日々の消費などが密接に結びついて  
いた住まいと地域との関係は、近代化を伴う急激な都市化によって断ち切れ、気が付けば  
住まいの周りには何もない、地域の中に知る人も少ないという状況が、ますます助長され  
ているように見える。

そこで、こうした閉塞的な住まいと地域の様相に危機感を抱き、『住まいの延長上にリ  
アルな地域を描き出すことで、住まいと地域との関係を捉え直し、建築関係者あるいは住ま  
い手は今後どう対処すべきなのか、身近に感じるかたちで構想し、行動へのキッカケを掴  
む』、これが今回のシンポジウム開催の主旨で、各パネラーの実践的報告のなかから、地  
域のビジョンを紡ぎ出していくものとなった。

### ■清水義次「エリアマネジメント＝家守の時代が来ている」

ひとり目の実践者は清水義次氏。「都心再生と過疎地再生を同次元的に捉える」ことを原  
点に展開する、現代版家守（ヤモリ）の活動が紹介された。地域で遊休化している不動産  
資源に着目して活用を推進するというこの活動は、公的補助金に一切頼らない、まさに民  
間による民間のための地域活性化プロジェクトである。東京都内の問屋街再生・廃校活用  
から、北九州や岩手県など地方都市の町有地再生まで、「地区ごとに処方箋が異なるだけ」  
と同次元の問題として捉えた、エリアに価値を見いだす実践。

### ■山本理顕「1住宅＝1家族」から「地域社会圏」へ

山本理顕氏からは、地域の鮮烈な空間イメージとともに、空間に連動した居住システムが提案された。これは、戦後日本の画一的な住宅供給の在り方、「1住宅＝1家族」というシステムが大きく破綻しているという背景から、山本氏があらたに唱える「地域社会圏主義」というもの。500人程度をひとつの単位と想定し、「寝間」と「見世」を中心に構成されたイエ（2.6×2.4×2.4m）が、多様に重なり合って連携していくという住空間モデルである。この集合が住まいのエネルギー供給やインフラ、地域内経済にまで連携しており、これから求められる介護や看護の関わりまでが、明解に示された。

#### ■岡部明子「地域の小さく回る経済の可能性」

岡部氏からは、地域で小さく回る経済の仕組みを探るための実践が紹介された。自らが教鞭をとる千葉大の学生とともに、千葉・館山にある茅葺き民家を再生・活用の事例である。資金もない、茅もない、職人もいない状況下で、地道にオンボロ家屋の掃除を続け、毎月の集会参加、夏祭りや蔵開きなど地域活動に参加を続けたという。その活動をベースに編み出された岡部流「地域で小さく回る経済の秘策」が伝授された。それは「そこに「住む」こと。そこに住んで仕事をし、生活をしてこそ、地域の暮らし全体が向上していくというもので、肩肘張って頭で考えずに、まずはその地域に身を預けることという、まさに足元を見直すような地域論であった。

#### ■藤澤好一「地域の生産者の将来像」

最後の藤澤氏は、これから地域の工務店がもつ可能性や将来像について、一般社団法人工務店サポートセンターでの動きを中心に紹介された。工務店は非常に小さな業態でありながら、古くから市場の要望に応え、業態を変化させながら発展してきた活動力がある。今後、地域間で連携することで、さらなる地域サポートセンターとしての可能性が増幅するであろうと、工務店の全国組織を目指す。多様性を尊重しながら、業界共通のルールをつくり、情報や人材をオープン化するなど、住まいに関わる生産者・造り手が連携することで、地域に暮らす住まい手の豊かな住空間にもつながるという展望が垣間見えた。



会場風景



ディスカッションの様子

本シンポジウムの詳細は、『住総研レポートすまいろん 2013』（2013年7月発刊予定）に掲載いたします。

以上